



生かされ、生きるチカラ。

だれに対しても 思いやりをもって

知多教会 坂口越世さん

坂口越世さんは、三河湾の知多半島寄りに位置する日間賀島で4人の子どもを育てながら民宿「寿屋」を営んでいる。朝4時に漁に出る夫を送り出すと、宿泊客の朝食の準備に始まり、客室の清掃、買い出し、夕食の仕込みと時間は慌ただしく過ぎていく。こうした毎日の仕事に加え、観光協会や地域の活動などもけておろそかにはしない。バイタリティーあふれる“おかみさん”だ。ところが17年前にこの家に嫁いできた当初は、民宿業と島の生活に慣れず、接客の仕事に苦手意識をもっていたそうだ。しかし、越世さんを支える仲間との交流を通して、だれに対しても思いやりをもって接することの大切さを学び、いつしか接客の苦手意識は消え、お客さまとの出会いを喜びに感じられるようになったという。どんなに忙しくても、越世さんの明るくはつらつとした笑顔と思いやりの心は変わらない。それがこの宿の魅力の一つとなっている。



出会いを宝物に変える

変化の多いこの四月には、新たな人や環境にふれる人も大勢いることでしょう。ただ、それを苦手に思う人にとっては気持ちが悪さきこむ時季ともいえます。しかし、新たな出会いは、未知の自分を発見する絶好の機会といえます。人が変化に順応するのは、新たな出会いによる刺激や環境の変化の影響を受けて自分を変えることです。それは、より創造的に生きるということであり、人間的な成長をうながすとともに、人生において大事なことを発見するチャンスでもあります。日常の小さな変化を見つけたら、出会いを成長や喜びに変えるコツの一つは、素直になることです。苦手意識をもつとき、私たちは好き嫌いという自分の感情や狭い価値観にとらわれていることが多く、それゆえ頑になりがちです。目の前のことをあるがままに受け入れる素直さが、二つの出会いを宝物に変えてくれるコツなのではないでしょうか。

立正佼成会